

そうぞの風

【URL】<http://www.iga.ed.jp/oyamada-e/>

2025(令和7)年9月30日

だい 6 号

こうちょうしつ
校長室より



確かな学 力を身につけるために

4月に6年生を対象に実施した令和7年度全国学力・学習状況調査の結果が届きました。
調査結果からみえる子どもたちの学力・学習の状況、今後の取組についてお伝えします。

1 学力調査の結果(平均正答率より)

「全国と比べて上回っている」	⇒ 学校正答率が全国正答率に対して+5%以上
「全国と比べてやや上回っている」	⇒ 学校正答率が全国正答率に対して+2%以上+5%未満
「全国と比べてほぼ同じである」	⇒ 学校正答率が全国正答率に対して±2%未満
「全国と比べてやや下回っている」	⇒ 学校正答率が全国正答率に対して-2%以上-5%未満
「全国と比べて下回っている」	⇒ 学校正答率が全国正答率に対して-5%以上

上記の表は、伊賀市独自の基準となります。この基準に当てはめると本校は、国語「全国と比べてやや下回っている」、算数「全国と比べて下回っている」、理科「全国と比べて下回っている」という結果でした。

2 学力調査の設問ごとの結果より「定着している内容 ○」と「定着していない内容(全国正答率との差が特に大きかったもの)△」

《国語》

○漢字を文の中で正しく使う。 問題：あつひ日。(暑い)

⇒ 本校正答率 86.5%(全国正答率 72.1%) +14.4P

△目的や意図にに応じて、伝え合う内容を検討することができる。

⇒ 本校正答率 37.8%(全国正答率 53.3%) -15.5P

△書く内容の中心を明確にし、文章の構成を考 えることができる。

⇒ 本校正答率 48.6%(全国正答率 65.5%) -16.9P

《算数》

○数直線上で、分数を単位分数の幾つ分としてとらえることができる。

⇒ 本校正答率 36.8%(全国正答率 35.0%) +1.8P

△知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できる。

⇒ 本校正答率 26.3%(全国正答率 48.7%) -22.4P

△棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができる。

⇒ 本校正答率 60.5%(全国正答率 78.7%) -18.2P



《理科》

○顕微鏡を操作し、適切な像にするための技術が身に付いている。

⇒ 本校正答率 57.9% (全国正答率 45.6%) +12.3P

△水のしみ込み方の違いについて、結果を基に結論を導いた理由を表現することができる。

⇒ 本校正答率 39.5% (全国正答率 60.5%) -21.0P

△実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現することができる。

⇒ 本校正答率 42.1% (全国正答率 62.0%) -19.9P

3 児童質問紙調査結果より＜抜粋＞ 肯定的回答を全国と比較 () は全国の割合

① 自分には、よいところがあると思う。 ⇒ 86.8% (86.9%) -0.1

② 将来の夢や目標を持っている。 ⇒ 89.5% (83.1%) +6.4

③ 学校に行くのは楽しいと思う。 ⇒ 94.7% (86.5%) +8.2

④ 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。 ⇒ 81.6% (81.3%) +0.3

⑤ 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりのどれくらいの時間、勉強をしていますか。(1時間以上の割合) ⇒ 44.7% (54.0%) -9.3

⑥ 土曜日や日曜日など学校が休みの日に1日当たりどれくらい勉強をしていますか。(1時間以上の割合) ⇒ 23.7% (47.1%) -23.4

⑦ 普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。(10分以上の割合) ⇒ 36.8% (53.2%) -16.4

⑧ 読書は好きですか。 ⇒ 57.9% (69.7%) -11.8

4 調査結果を受けて

学力調査の結果については、全国平均には達しませんでした。昨年度の状況と比べると改善傾向にあります。今後、教職員がさらなる授業改善に取り組みます。子どもたちに「わかる」授業を行い、子どもたちが



「できる」ように支援します。6年生の子どもたちについては、定着していない内容について補充的な学習を行います。5年生以下の子どもたちについては、算数の「割合」「図形」といった経年的に本校の課題になっている内容について、それまでの下学年での学習がきちんと積み上がっていくように全ての学年で見直しをはかります。高学年での算数の習熟度別授業や、ICT機器の活用、読書活動の推進等にも引き続き取り組みます。

児童質問紙調査では、「学校に行くのは楽しいと思う。」「将来の夢や希望を持っている」といった質問で全国と比べて肯定的な回答が多く、子どもたちが安心して学校で過ごしていると捉えています。全ての子どもたちが肯定的な回答となるように今後も学校経営に取り組みます。

最後に保護者の皆様へのお願いです。「家庭学習、読書の時間が少ない」「スクリーンタイム(ゲーム、スマートフォン)の時間が多い」等の経年的な課題を改善するため、引き続き、ご家庭でのご協力をお願いします。